[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

1884

死亡確認申告書

昭和23年4月3日

所属部隊

発令年月日	21.9.3	
死亡場所及同区分	シベリヤ[illegible]地区ボグラニチヤヤ 所戦病死	
死亡種類	戦死	
氏名	高宮登仁	
留守担当者の本籍及現住所 続柄 氏名	本籍 同 現住所 同 妻	広島県呉市浦町字橋本[illegible] 右 高宮雪路
遺骨+遺留品有無	遺骨+遺留品共無	
階級	上	
所属部隊	[redacted]	
現住所	[redacted]	
官等	[redacted]	
氏名	[redacted]	

(確認)

昭和二十年十月二十三日ボグラ収容所に入所鉱山作業に従事せしが同二十一年二月十日頃発病右收容所医務室に入室加療中の處同年九月三日死亡したる事を確認す病名 発病ヨリ入所迄日数 死体は自ら埋葬す

(例)

二月末と文戦中 昭和二十年八月十四日 阿蘭山地方五料の地点に於て復員通牒創に依り戦死すると確認す 死体は中隊が右地点に埋葬す

オーストラリヤ軍と文戦中第義大湖になり地区司令部軍務局上級参謀中の處同年三月廿三日(記憶)頃死亡したるを確認す

死体は副官部に埋葬す

第二復員省
地区司令部
203

第二復員省
ウエワク
第天白裏山
地区司令部

所属部隊 [redacted]

現住所 [redacted]

官等 [redacted]

氏名 [redacted]

21-14

1885

陸軍軍人未帰還者現況調書

口述及第一部通報者住所氏名

第十八軍軍政部整理班第八物資移動整理班

[redacted]

未帰還者の部隊名

本籍地

[redacted]

官等級

不明

氏名

[redacted]

戦時終時地名

南方

摘要

昭和二十年四月十日頃ラバウルにて戦死

備考

昭和二十一年三月十五日付第一部右の通知あり

6-12

1886

[redacted]様

（所属 南方派遣洋九三〇一部隊 気付洋九三〇三部隊）

拝啓

春暖の候皆々様には益々御健祥に亨らせられる事と思ひます私儀

御子息[redacted]君の中隊長として[illegible]地に奮戦し此の度帰還の命

に浴し一月十四日浦賀に上陸致した者であります謹みて[redacted]君

の御戦死に対し敬弔の誠を捧げ後刻公報に接せられる事と思

ひますが御遺族の皆様に日も早く[redacted]君の御戦死と当時の壮

烈なる御戦死の模様を御知らせ申上げ皆様と共に[illegible]

[redacted]

3-11

慰さめ出来れば幸甚と祈又願ひ度と取つたまでの
病気の為御知らせするが遅れて誠に申訳ありません部隊は昭和
十七年十二月十五日宇品を出港ラバウル目指して別進大隊は
襲下のラバウルに上陸直ちに島に敵の基地の建設に邁進
致した実地より何日を経ずして敵地に到着した我々には見事
な身に応へる事は想像以上でありました　　君は不肖な私
の位命令して良く父兄に堪えられ其の地の建設に日も
休む事なく踏躍せられたのであります状況は刻々と迫
迫つつありまして「ラバウル」の基地完成するや休む暇なく
「十八年三月中旬」愈々摩耶不毛の地「ニューギニア」に別進史
に私以下二十数名の者は部隊主力とはなれて二ロ村の地点に
前進両則の目取中に飛行場の建設に着手致した私の
部隊は他の隊と異り特殊の車輌を持ち而て私以下全員此

中野一七八

3-12

等の車輌に対して知識を持つて居りませんでした為[redacted]君は初
年兵当時修得した自動車の知識を基礎として[redacted]
せられ且学び且戦つたのであります敵の反撃は日に
激烈を極め飛行場の作業中大型爆撃機の空襲を受ける事
は毎日でありました。[redacted]十八年五月八日新潟長官以下
[redacted]名の御戦死の中[redacted]合戦とはかり作業は猛烈に強いられ
ました休養の日など宮合の変の雑をながめながら故郷の事
に思ひをはせ[redacted]畏の小川のえびを取つて天ぷらを作つた
明けて十九年一月マダン地区を特進ウエワク「ブーフ」に向
ひました十九年四月敵アイタペ「ホルランジヤ」に上陸するに及
んで糧秣は全くなくなり航空部隊は地上部隊の指揮下
にあつて戦斗する様になりました[redacted]君は直ちに地上部隊の
基幹要員の使命をもつて勤務する様になり東[redacted]部は自活に

入つたのでありますが少し手加減は[redacted]人との自治もコアーダベーの敵[redacted]進撃
に従つて再び戦闘は開始せられ私の大隊と[redacted]君の御隊とは共
に戦闘する様になり[redacted]君の部隊は敵の根據地を攻撃
すべく命ぜられ三月初旬より戦闘に加わる始せられました
米かなく芋や澱粉(片栗粉)等を取つて来て食べ今らの
戦闘ですから昌加析れました栄養不足を補うために食
べるものは何でも食べ敵の陣地の攻撃に全力をそそがれました
弾薬の不足は肉弾又肉弾として攻撃戦争は次々倒れ
[redacted]君は良く中隊長を助け負傷せる隊長を助けて終に敵
陣を占領しました所が敵の反撃猛烈で弾丸に[redacted]君
の頭部に命中壮烈なる戦死をとげられました昭和十年三月
十五日夜明でありました御遺族の御に中を御祭申げます
四月中旬公務のため伊東の方へ参りますので其の節

[redacted]

中柳一七八

1890

君の墓参方ニ御伺ひ致し度く思て居ります
出征中は旧々様より御手紙厚く厚く御禮申上
げます御躯御大切に
乱筆にて失礼致します　敬具

3-15

No. 1

昭和十六年十二月、比島の各地に敵前上陸、続いて比島攻略戦に参加、昭和十八年五月「ラバウル」同年九月「ニューギニヤ」「ウエワク」に転進し「ニューギニヤ」航空戦に参加

不幸昭和二十年六月二十七日 東部「ニューギニヤ」「ヤミール」に於て戦死されし貴家御令息[redacted]と苦斗五年、終始行動を共にし今回大命に依り昭和二十一年一月二十四日内地帰還、爾后部隊の残務整理を実施し今仕事も一段落、此處に当時「ニューギニヤ」に於ける記憶を辿り其の状況を通知せんとす。

昭和十八年八月部隊の陣容を整へ昭和十八年九月二日人跡未踏悪疫章癘の地と云はれる「ニューギニヤ」「ウエワク」海岸に到着するや敵機の爆撃を受け五隻より成る船団中三隻に直撃何れも沈没せり。中の一隻は部隊の人員の乗船しあり居るものにして濡鼠となり救助を

67-11

1892

を得て上陸せるも二千余名の犠牲者を出せり
九月五日「ウエワク」中飛行場に展開し航空戦に参加す
秋に「ポートモレスビー」攻略を企図せる地上部隊は眼下に「モレスビー」を見下す所迄到りたるも補給不可の為「ブナ」ー「ラエ」ー「サラモア」続いて後退の止むなきに到る
当時東部「ニューギニヤ」に於ける制空制海権は敵手に在りて遂次西部に勢力を伸延しつゝありき、「ウエワク」空爆熾烈化したるは此の頃にして連日基地飛行場を爆撃その都度「ニトン」の如き巨弾の雨を降らせ為に終夜是が補修するを繰返すこと六ヶ月遂に昭和十九年三月「ニューギニヤ」制空制海権は敵手に帰し敵地上部隊は次々と「アイランシュフアーフエン」に上陸ー「ラバウル」ー「ウエワク」間の連絡路は全く断たれ加ふるに昭和十九年四月下旬敵は「アイタペ」「ホルランジヤ」に上陸ー東西「ニューギニヤ」の連絡止つ

67-12

1893

軍は當時「ラエ」「サラモア」より撤退し「ウエワク」に集結「アイタペ」「ホルランジャ」の敵を突破し西部に後退ヲ企圖し七月に攻勢を開始せるも日中は勿論夜間なりと謂も燈火を附ける自動車の運行困難にして敵の空軍並に沿岸を徘徊する奥雷艇には全く手も足も出ず夜間を利用し無燈火にて物の輸送尚山間道を伐開し搬送するも量に於ては勘少にして第一戦に到着するは実に一日一人五〇に足らずしと聞く、当時航空部隊も一部は歩兵部隊に編入せられ第一線戦斗に参加せり、

部隊は依然「ウエワク」に在りて後方輸送に任じ居りありたるも宿舎は次々と爆撃に會ひ転々と移る六度、遂には海岸より二粁もある「ジャングル」内に位置し夜間作業に依り輸送すること二ヶ月(七、八)第一戦部隊は極度に疲労し戦力を消耗、作戦不可となり

No. 4

軍は愈〻断念し「ウエワク」を中心とし奥地山間土人部落迄利用し現地自活により余命を保たんと決心せり。

秋既に昭和十九年九月にて内地よりの輸送は同年三月以来一隻の船もなく集積しありし糧秣弾薬は空爆の為相当量の損害を受け九月以降是等補給は皆無となり部隊は一部人員を以て速急原野密林に於て糧食を求め（特に「ヤシ」依り採る澱粉）主力を以て農耕（薩摩芋）にて主食を得んと努力せるも給養不良者加へて「マラリヤ」栄養不良にて死亡する者遂次増加し参考迄に統計を記す

（十九年九月　一〇　十月　十五　十一月　二〇　十二月　三〇
二十年一月　三〇　二月　二〇）

右の驚くべき数字を記憶しあり。

昭和二十年に入り敵は東西四圍依り攻寄せ来り

07-14

1895

軍は全く袋鼠となり最后の玉砕を決し部隊は「ウエロク」西南方へヤミール、ウルプ第一戦部隊として最初の地上戦斗の為上陸以来二百余の戦歿者の慰霊祭を「ウエロク」に於て施行同地に埋葬残る百名に足らざる人員を以て臨時編成にて二ヶ中隊を編成最后の守地に向行動を開始せり

五月、目的地着、下旬依り地上戦斗を交へ「ウルプ」「ガリプ」「ラバール」等転戦、終戦に到る

此の間特に昭和十九年九月以降の状況は言語に絶するものありて筆跡に認める文字を知らざりしも、二、三、例を挙げ状況推察願度

十九年八月糧秣補給杜絶以后の手持食糧勘少にして定量にして半月困難なる程度にして調味品にしても、一人当り一合に足らざる塩を最后の者として配給、是を長きは終戦迄実に一年半に亘り使用、其の間塩の代用とし

67-15

1896

No. 6

て「トウガラシ」等を利用せり。当第一師団長兵団長にして患者の見舞品、前線作戦指導来隊時の「みやげ」ものとして「トウガラシ」が使用された。是又貴重なものであった。

被服、靴等破れて裸足となって炎熱焼くが如き草原に於て戦斗し又、地上戦斗に於ては四ヶ月間終日蛸壺生活をなす等当時を述べれば筆の止まる所を知らず。

終戦后（自昭和二十年九月至二十一年一月）の間、軍は联合軍の給養を受け「ウェワク」沖の「ムッシュ」島に集しありたるも戦斗間の疲労に「マラリヤ」の再発等々にして死亡せる気の毒な戦友も亦尠からず。

是と要するに当時（時各）人の心境は内地には絶対帰れぬものと思ひて早かれ遅かれ弾か病かにより「ニューギニヤ」の土と化すの覚悟ありて戦斗に於ても任務に斃るゝを何の苦とも思はず敢斗し負傷者病弱者にして身の自由の利かざる者等の潔良く自殺と行く鬼神を泣かしめるものもありたり。

67-16

1897

No. 7

斯くして御令息各位は任務の下水火尚辞せざるの精神あり
て散化せらるる　此の戦争は敗戦し死歿者の生命無駄もの
になったかの感あるも此の精神こそは子々孫々に傳へ現下
民主主義復興日本の一日も早からんことを祈ると共に
「ニューギニヤ」に葬られる英霊に対し哀心より敬弔の意を表
し謹みて御遺族各位に厚く御見舞申し上げます
以上は唯小生当時の記憶を想ひのまゝ原稿もかゝず
書連ねたものなれば文章にならざる点不可解の点も
多く有ることを存じまするも宜敷く推察願ます
尚四月七日頃依り整理も終り帰国するに付連絡の
項等あらば左記本籍地に願ひます

三月末日　南海派遣洋第九六四四部隊

本籍

[redacted]

残ム整理

67-17

1898

前後お伺いもの [redacted] 様の件につきまして 主人 [redacted]
がニューギニヤ帰還後マラリヤに依る脳障害で症状悪く
なかなかみつかりませんが [redacted] 様の消息につきまして分かりませんでしたら
ぶらで消息に接することがありませんけれども主人見た様を加へ御知らせ
に関しましては事や待帰りました書類等見てみましたが
[redacted] 部隊（第一野戦隊）一三二四名の内生存者は四十七名が生還
内地人は三十九名で [redacted] 様のお名前は見えませんでした
十八年十二月二十五日より終戦までの日記を見まして主に部隊を移動
爆撃及び砲撃で戦死されたそうです [redacted] 様も主として戦死されたそうです
と思っておりますが尚当時の軍曹殿がお元気で
病院の院長をして居られますので御手紙下さいます様お願い申し上げます
小生 [redacted]
右の名及び誠に申訳ありません
様 [redacted]
敬具

1899

郵便往復はがき
返信
（受取人）
千葉市小博台町
厚生省未帰還調査部第四課
29.7.19
29.7.19
四方南
詳班
29.7.19
受領

1900